

<真剣味>98

2020. 2. 28

<ライバル・憧れの背番号！>

ライバル（競い合える仲間）とされる人が存在し、共に切磋琢磨することで、自分にも相手にもプラスになるはず。個を高めるためには有難い存在です。我がチームにもそんな意識して競い合っている選手はいると思います。言葉にしても、出さなくても良いと思いますが、大事なことは、相手の力を認め、正々堂々と競い合ってもらいたい。

私の場合は学生時代に憧れの背番号を獲得するために、日々と練習したことを覚えています。その「憧れの背番号は9」です。以前付けていた先輩外野手の方が走・攻・守に優れ、誰もが一度は付けてみたいと思った番号だと思います。ただ私の場合はベンチにも入っていない、力不足の人間がそのような夢を抱くことは失礼だったかもしれません。でも特に公言していたわけではないので、とにかく練習は頑張り、獲得できるよう挑戦はしました。

気持ちも練習も継続しましたが、まだまだ力不足ということで、番号どころかベンチにも入れない3年間でした。

<継続こそ成長！>

●上に上がるため…選手達は週4回の練習をリーダーが中心になって一生懸命に取り組んでいます。試合の初回から自分達の力を発揮するため、ウォーミングアップの前から自分達でアップを行い、練習の初めから元気一杯でスタートできるよう工夫して取り組んでいます。これは本当に素晴らしいことだと思います。この気持ちで全員がいつも取り組めたら、チームも大きくステップアップすると思います。もうしているかもしれません。とにかく自分たちの色になるまで、また形になるまで、こだわって練習していってもらいたい。

●続けてほしい…ある休日のビニールハウスでの練習中、捕手組は他と別メニューでトレーニングすることがあります。ある日、コーチの指示で捕手でない選手が捕手と2人でスイングをしていました。あれっ！どうしたのかなと思いましたが、きっとその内に終わると思っていた。ところが、スイッチが入ったのか彼は捕手の人と最後まで相当な数をしっかりスイングし、汗を出しながら頑張っていました。ただ頑張った！で終わるかこれを続けて本当の力にするかは、彼の課題解決の力にかかっていると思います。

●人として…①練習の初めの選手宣誓では以前より丁寧で、はっきりとした口調で、ゆっくりと宣誓できる選手が増えてきています。特に上級生です。間を空けて、言葉を発するということは思ったより勇気が必要な作業になります。それによって内容が分かり、聞いている方としては心地よく、応援したくなります。ただ早口で何を言ったか分からぬようでは内容が分からず、自分の中に染み入ることがないかもしれません。選手間ミーティングで話し合った内容のようです。継続していきましょう。②挨拶、コーチからの指導で社会に出ても通用するような挨拶をしよう。特に昔野球をやっていた人達は何を言っているか分からぬ内容で、早口。これでは他人に何も伝わりません。だから我がチームは丁寧で、はっきりとした挨拶を徹底しています。

<新入団選手>

硬式ボールを速く、遠くに投げられる児童は何人もいます。前回も書きましたが、今は無理をせず、週4回の練習リズムに慣れてもらいたい。そして①元気でハキハキした挨拶をすること。②素早く行動できること。③柔軟性を高めること。④さまざまな身体の使い方を学ぶこと。などに努力してもらいたい。また、そろそろ疲れの出る頃でもあります。実際、体調不良で欠席者もいます。とにかく無理・無茶は禁物です。

新入団選手は「現時点で12名」になりました。ありがたいことです。これからどれだけの人数になるか分かりませんが、体験に来てくれた児童がどのような結果を出してくれるか楽しみです。これからも保護者の皆様にはご協力のほどよろしくお願いします。